



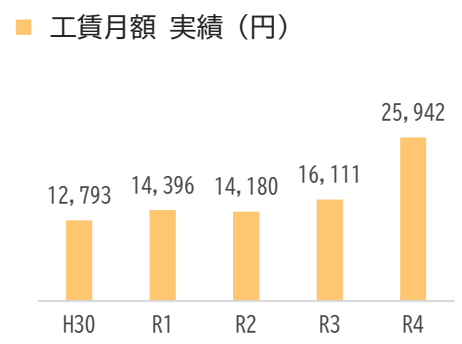
◀ 地域のつながりを大切に ▶

NPO法人 kokoima
おめでたい

基本情報

- 所在地 堺市堺区
- 指定年月日 平成29年8月
- 利用者数 11名 (R6.4.1現在)
- 職員数 13名
+ ボランティア1名 (R6.4.1現在)
- 利用者の主たる障がい種別 精神障がい
- 一般就労実績

H30	R1	R2	R3	R4
2名	0名	1名	0名	0名



工賃向上の取組み

大切にしてきた地域とのつながり

運営法人の理事長 兼 事業所の管理者は、かつて精神科の看護師として勤務していました。入院患者を撮影した写真展に参画した際、その生き生きとした表情や様子を見て、精神科患者の方への見方が大きく変わり、「この方たちのための地域の居場所を作りたい。」という思いから、福祉事業を立ち上げました。

利用者は、法人が運営するリユースショップやカフェの製品づくりや販売を行っています。

「リユースショップゼロ」は、地域の方から提供された品物（衣類、日用品、食器、生活雑貨、小型電化製品など）を販売しています。「いただく」「必要な人に販売する」は、人と人をつなぐと同時に、まちの賑わいや交流を生み出す行為であると考えています。このリユースショップは口コミで地域に浸透し、今も地域の方から様々な品物が提供されています。

コミュニティカフェ「Café ここいま」の立ち上げにあたっては、地域の大学の先生や学生が協力してくれました。この関係は、後のウェブショップの作成にも学生たちが関わってくれました。

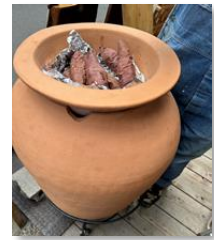


リユースショップ ゼロ



コミュニティカフェ「Café ここいま」

コロナ禍で既存事業の収入が減少 → 商品開発と販路拡大へ



新たに始めた「壺焼きいも」

コロナ禍で「Café ここいま」と「リユースショップゼロ」の収入が大きく減ってしまいました。どうしたものかと模索していたところ、地域の人からリユースショップに持ち込まれた「火鉢」からヒントを得て、以前から知り合いの農家の方のノウハウを得て取り組んでいたさつまいも栽培を生かし、壺焼きいもの製造・販売を令和3年に始めました。これがカフェの人気商品となり売上に貢献しました。

自社製品の販売場所として「アトリエ&ギャラリー ふくもち」を令和3年に開設し、そこで着物を日常着やバッグなどの小物にアップサイクルし、販売する事業を始めました。これも「リユースショップゼロ」でつながった、地域の人たちのご縁から生み出されたアイデアです。おしゃれでユニークな製品のデザインは、職員と利用者と一緒に考えています。

製品の販路の拡大のため、令和4年からウェブショップでの販売も始めましたが、これについてはまだまだ発展途上です。

また、地域の大学とともにファッションショーを開催し、新規顧客の獲得にも励んでいます。



アップサイクル作業の様子



アップサイクル製品のファッションショーのチラシ

工賃向上・就労支援の取組み

利用者の「働く」ことの意識の向上

職員・利用者全員が参加する毎週のミーティングで、各事業の収入・支出、工賃支払額を共有し、事業所全体のお金の動きを把握しています。様々な観点から「今月の売上目標を達成しよう」「商品陳列を工夫しよう」など意見を出し合い、「増収」をみんなの目標とし、モチベーションを上げました。

その結果、工賃を向上することができただけでなく、働くことの意識の向上にもつながっています。



ミーティングの様子

これまでに築いてきた地域のつながりを大切に、新規商品の開発・販路拡大に積極的に取り組むことで、コロナ禍の減収を乗り越え、工賃を大きく向上させることができました。

利用者にも事業所の運営に積極的に携わってもらうことで、事業所一体となって作業に取り組むことができています。



◀ 単価交渉・生産性向上・新規事業などの工夫 ▶

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会

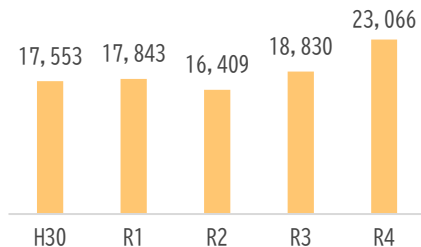
港第二育成園

基本情報

- 所在地 大阪市港区
- 指定年月日 平成26年4月
(就労継続支援B型事業所として)
- 利用者数 40名 (R6.4.1現在)
- 職員数 12名 (R6.4.1現在)
- 利用者の主たる障がい種別 知的障がい
- 一般就労実績

H30	R1	R2	R3	R4
0名	0名	1名	1名	0名

■ 工賃月額 実績 (円)



工賃向上の取組み

取引先との単価交渉へ踏み込む

港第二育成園は、通所授産施設として平成4年に設立されました。当時から、地域の地場産業であるボルトの製造・販売をする企業から作業を請け負ってきました。障がいのある人もしっかりと仕事ができるようにと、設備投資にも力を入れました。

設立から30年以上経過した今では受注量も増えてきましたが、単価は設立当初のままであったため、作業量に見合った工賃が支払えていない状況でした。

そこで、2、3年ほど前から取引先への単価の引上げ交渉を行いました。コロナ禍で、どの企業も苦しい状況ではありましたが、企業の方に実際の作業の様子を見てもらい、職員・利用者がどれほど手間暇をかけて取り組んでいるかということを理解してもらうことで、単価の引上げに応じていただくことができました。



ボルトの組立作業の様子

既存の資源を活かした新規事業の展開



新たに始めた焼き菓子の製造・販売

令和3年度から焼き菓子の製造・販売を始めました。同法人の生活介護事業所の焼き菓子製造活動を担当していた栄養士からノウハウ・技術を学び、かつて宿泊型自立訓練(旧通勤寮)を運営していた際に使用していた厨房・食堂を整備して、製造しています。”新規”事業ではありませんが、既存のヒト・モノを活かして取り組んでいます。

生産性向上のための工夫：作業場所のレイアウトを見直し

受注量が増えてきたので、より効率よく作業を進めるため、作業場所のレイアウトを見直しました。作業スペースや動線の確保を行い、また利用者が安全に作業ができるように工夫することにより、職員も利用者も作業に集中することができています。



作業場レイアウトの見直しにより、作業がより効率的に

これまで、部材や完成した製品は、取引先のタイミングで持ち込まれたり、持ち帰られたりしていました。しかしこれでは、部材や製品を置くスペースのために作業スペースを確保することが難しくなったことから、計画的な持ち込み・持ち帰りをお願いすることで、作業スペースを確保することができました。このようなお願いを受け入れていただいたのも、これまでの担当者が取引先と良い関係を築いてきたおかげです。

周りの目を気にせず一人で集中して作業をしたい方のためのスペースも設けました。本人にとっては一人になれる空間ですが、職員は外から覗けるようになっていまして、安心して作業を見守ることができています。



一人で作業に集中できるスペースも用意

他事業所との連携により新たな利益を

貨物用エレベーターやフォークリフト、梱包機や電子はかり等、ハード面が充実していることもあり、たくさんの注文をいただきましたが、時にはすべてを受けきれないこともありました。そこで、発注が少なく困っている、法人内や関連する生活介護事業所、就労継続支援B型事業所に仕事を仲介しました。その代わりに、電子はかりや梱包機等の機械がない事業所からは、検品・梱包代をもらうことで利益を上げました。この取組みは、取引先(発注元)・法人内や関連する事業所の双方に喜ばれています。

就労支援の取組み

取引先とのやりとりなどを通して企業で働くイメージを

取引先との部材や製品、伝票の受け渡しも利用者と一緒にやる機会を設けています。実際に企業で働く人の様子を見て、感じることで、一般就労をめざしたいと希望する利用者もいます。また、焼き菓子の販売会でお客さんと交流することも、利用者の刺激になっているようです。

同法人は障害者就業・生活支援センター事業も受託しています。そのネットワーク・ノウハウを生かして、一般就労を希望する利用者に向けた勉強会を開催しました。

作業を通じて、お金を稼ぐ喜びを利用者に知ってほしいと考えています。

そのためにできることを創意工夫し、単価交渉や新規事業を展開した結果、工賃の向上につなげることができました。法人のネットワークを活かし、就労支援にも積極的に取り組んでいます。



◀ 就労意欲を高めるための環境づくり ▶

社会福祉法人 大阪市障害者福祉・スポーツ協会

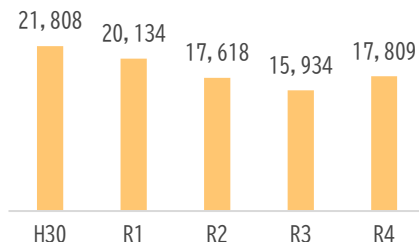
ワークセンター千里

基本情報

- 所在地 吹田市
- 指定年月日 平成21年4月
(就労継続支援B型事業所として)
- 利用者数 59名 (R6.4.1現在)
- 職員数 15名 (R6.4.1現在)
- 利用者の主たる障がい種別 知的障がい
- 一般就労実績

H30	R1	R2	R3	R4
1名	1名	1名	0名	4名

■ 工賃月額 実績 (円)



工賃向上・就労支援の取組み

施設外就労でより高い工賃を

ワークセンター千里では、組立て梱包等の軽作業のほか、施設外就労に積極的に取り組んでいます。施設外就労では、所内作業の工賃時間単価の約3倍の工賃収入になることもあります。取引先で作業をすることで、企業で働くイメージがより鮮明になり、一般就労を希望する方が増えました。また、利用者が「施設外就労は楽しい」「自信につながった」と事業所内で話をすることで他の利用者も「自分もやってみたい」と良い循環が生まれています。

令和3年度の施設外就労加算の廃止時は、施設外を続けるか正直迷いましたが、利用者に高い効果があると考え、続けていくと決めました。コロナ禍では施設内外ともに受注が減って、工賃も下がりましたが、最近は、受注回復し、工賃も上がりつつあります。

全員がいろいろな作業ができるように

例えば、特定の利用者しかできない作業がある場合、その方が施設外就労で不在の場合や、就職して退所した場合に、生産活動に影響が出てしまいます。実際に、利用者の就職を喜ぶ一方で、今後の生産活動を不安視する職員の声も聞きました。

そこで、作業メンバーを固定せず、ローテーションする仕組みを作りました。中には環境の変化に敏感な方もいるので、本人の気持ちを優先しながら行いました。利用者それぞれが所内の一通りの作業を経験しておくことで、不在や退所もカバーできています。また、色々な経験を重ねて利用者の「こだわり」が少なくなったという効果もありました。



タオル折りの様子

工賃向上の取組み

作業の細分化により不良品発生防止

過去に、製品の組立において、一部部品が装着されていない商品が流通してしまい、取引先にご迷惑をかけたことがありました。

そこで、すべての部品を決められた個数分(120個単位)用意してから、作業に取り組みました。もし部品が余った場合には、すぐに製品を確認するようになったことから、不良品の発生を未然に防ぐことができました。

商品の袋詰め作業も同様に工夫しました。例えば、10個の商品を重複や不足なく袋詰めする作業において、10個すべてを確認するのが難しい場合、3個・3個・4個に分けて、それを最後に合わせることで、ミスなく作業を進めることができました。これらの工夫により、不良品の発生を防止することができました。これが取引先からの信頼を得ることにもつながり、他の業務の受注にもつながりました。



袋詰め作業の様子

生産性向上のための工夫：機械の導入

部品の切断作業について、これまではニッパを使って切断していましたが、長時間作業で疲れが出て、綺麗に切断できませんでした。検品時に再切断することが多くなり、1日あたりの生産量にも影響しました。

そこで、部品の切断機を導入することにしました。これにより、切断作業による身体的疲労が軽減し、作業の負担感が少なくなったことで、誰もが取り組むことができる作業にすることができました。検品時の再切断をすることもほとんどなくなり、生産性を向上させることができました。



箱の組立作業の様子

就労支援の取組み

就労支援プログラムの実施

以前から「就労支援プログラム」(外部講師を招いたビジネスマナーや働く心構え等の講義)を実施していましたが、開講当初は併設の就労移行支援事業所の利用者のみを対象としていました。

あるとき、就労継続支援B型事業所の利用者に「自分も就労支援プログラムを受けて就活をしたい」と希望する方がおり、改めて全利用者に意向を確認したところ、利用開始当初は「就職は考えていない」と話していた方の中にも、施設外就労などを経験することで、「就職したい」と気持ちに変化があった方がいることがわかりました。

そこで、就労継続支援B型事業所利用者の希望者にも就労支援プログラムを実施するようにしました。支援が実り、実際の就職にもつながっています。事業所のサービス環境、利用者の思いや希望も変化していくと感じています。

不良品発生防止などの様々な工夫によって取引先からの信頼を得ることができ、結果的に受注の拡大につながりました。

施設外就労でさらに力をつけるとともに、施設内の作業でも利用者それぞれが色々な作業を経験しておくことで、一般就労により利用者が退所することがあっても、生産活動への影響を心配することなく、早く送り出すことができます。